

令和5年12月5日

養父市議会議長 西田 雄一 様

総務文教常任委員会

委員長 谷 垣 満

### 総務文教常任委員会調査報告書

閉会中において、本委員会の所管事務につき調査したことを次のとおり報告する。

#### 記

- 1 調査年月日 令和5年11月7日（火）、8日（水）
- 2 調査事項 (1) 岡山県奈義町における子育て支援の取組について  
(2) 岡山県西粟倉村における関係人口の創出について
- 3 調査内容  
別紙添付（委員派遣報告書）

#### 〈まとめ〉

##### (1) 岡山県奈義町における子育て支援の取組について

奈義町は、住民投票により合併しないことを決定し、町の存続について住民と一緒に話し合ってきた過程がある。住民合意の基に生まれた「子育て応援宣言」が、町の個性や愛着の形成と住民自ら積極的に関わる当事者意識につながっており、社会全体で子どもを育てる意識が地域に根付いている。高齢者や地域住民が他者の子育てに関わることで、心の充足感や貢献の実感と合わせて、社会的な役割とつながりの確立に寄与しており、多様な住民や地域に相乗効果をもたらしている。子育ての当事者も町職員と協働で、なぎチャイルドホームの企画・運営を行っている。自身の立場から必要な支援や事業を展開することで町全体の子育てに主体的に関わっており、「行政との距離を感じない」との言葉からも一体的に活動していることが窺えた。

孤立や心身の疲労が危惧される子育て世帯にとって、高齢者や地域住民の支援、親同士で協力し合える関係性が心の支えとなり、子育てに対する安心や幸福を実感していることが、出生数を維持し、多子育児の不安を解消・低減させている。奈義町は、定住希望のある町民の割合が76%と高く、子育てを中心とした地域や住民のつながりが町に対する満足度に表れている。子育ての負担や不安を地域社会全体で共有し支え合う意識の転換は、当事者だけでなく多様な住民福祉の向上に寄与することが感じられた。

## (2) 岡山県西粟倉村における関係人口の創出について

西粟倉村は、村存続の旗印に掲げた森林資源の活用を軸に、若者や企業家など地域外人材の獲得、雇用を生み出すローカルベンチャーの創出、地域課題のビジネスモデル化など有機的に拡大している。地域外人材同士のネットワークにより、そこから生まれた企業や事業が発展していくことで、さらなる人材や関係人口の増加につながっている。

WEB上での広報や関わり創出の重要性を把握し、より効率的・効果的な成果と、可視化し発展させるための手法として「西粟倉アプリ村民票」を開発し運営している。導入以降、飛躍的に増加しているふるさと納税においても、寄附者とのより直接的なつながりには独自アプリの優位性がある。

また、地域おこし協力隊を地域の担い手や創生のプレーヤーと捉え、積極的に活用してきたことも、関係人口を発展させた具体的な取組の1つである。地元企業と協力隊員の連携は人材確保に留まらず、新規事業や第二創業、事業承継に新たな効果を生み出すものと推察される。行政の仕事を行う隊員は、行政職員の担い手不足を補うと共に、新たな視点からの提言や地域とのつながりによる政策効果が期待される。

関係人口から移住や起業へと発展した背景には、地域外人材の積極的な獲得と、WEBを活用した効果的な広報やつながりの維持・発展に向けた取組の成果はもとより、村が示した未来への共感が大きな動機となっている。現在、アプリの運営、ふるさと納税、ローカルベンチャーの起業支援など、多くの業務を民間企業や地域おこし協力隊が主体的に担っており、行政・企業・住民や地域外人材の協働によって地域創生を目指す、新たな関係性が構築されていると感じられた。